



心のビタミン No.206



熟した酒で新年を

新年おめでとうござい

ます。今年の干支は「酉（とり）、さけのとり」。

酉の由来は果実や酒が熟したり、物事が頂点まで極まったりすることです。

トリは運氣もお客さまも取り込めるため、商売繁盛につながる年になると期待できそう。

さて、酉の語源とは？

その昔人々が集まり、真ん中ではたき火が焚かれていました。土にささって

いるのが先の尖った壺。中には水+酉=酒が満たされ、酒の蒸気や香りが立ち上る情景を漢字で表すと、酒+八=酉（熟したお酒）に。酉長は集落

の指導者であり、ときには薬師や医者役割も担います。熟したお酒を両手(寸)で頭の上に持ち上げると酉+寸=尊となり

神様に捧げる大切な儀式を執り行うのです。尊敬される村長の役割を演じます。お酒が入る容器は木製で木+尊=樽となる

というワケです。

なお、「医」の旧字体である醫=酉+医+攴には、酒壺に薬草を封じ込み薬酒を作るという意味合いが。漢字が難しすぎるため、その一部の医を借りて使ってきました。酒は百薬の長とされ、お酒を上手に活用するとストレス緩和にも効果的といえましょう。

干支十二支で10番目の酉(鶏)は9番目の申(猿)と11番目の戌(犬)との喧嘩を仲裁する役割があるとの説も。いろんな能力が備わる酉の年、共に酒を酌み交わし、清々しい新年を一緒に進んでいきたいものですね。

(医師・音楽家 板東浩)

